

変形性膝関節症



整形外科医師
田畑 知法

山香病院だより vol.31

皆さんこんにちは。整形外科の田畑です。今回は変形性膝関節症についてお話しします。

変形性膝関節症（へんけいせいひざかんせつしょうじょう）は、筋力低下、加齢、肥満などにより膝関節の機能が低下し、軟骨や半月板が摩耗や変性、断裂を起こし、痛みを伴う病気です。

症状は動作時痛（立ち上がり、階段昇降、歩行など膝を動かした際に痛みが起こる）、可動域制限（膝をまっすぐ伸ばして立ったり、しゃがんだり、正座をするとつらい）、関節腫脹（膝の中に炎症によって過剰に作られた関節液がたまる）等があります。

診断は、症状・診察所見・レントゲン・MRI等により行います。

治療は保存療法と手術療法とがあります。

保存療法には筋力強化訓練（太もも・膝周囲の筋肉を鍛え、膝の支持性を高める）、可動域訓練（柔軟性を高める）、歩行訓練、物理療法（血行を良くし、筋肉の緊張をほぐす）、装具療法（サポーター、足底板、杖など）、薬物療法（痛み止めの内服薬・外用薬（塗り薬・貼り薬）・座薬、ヒアルロン酸などの関節内注射など）があります。

手術療法には関節鏡手術（痛んで症状を起こしている軟骨や半月板を取り除く）、高位脛骨骨切り術（骨切りを行うこ

とで膝のバランスを良くする）、人工関節置換術（痛んだ軟骨の部分人工関節で置き換える）などがあります。

まず、先に述べたような症状があれば整形外科を受診し、正しい診断を受けましょう。保存療法を行い、それでも日常生活に支障をきたすような痛みがあれば手術療法を受けることを考えてもよいと思います。

当院整形外科は脊椎疾患の患者さんが多いですが、肩・膝・股関節などの疾患にも対応しております。膝の痛み等でお困りの場合はいつでも受診してください。